

## 「あなたは神がつくった器」 ～器の大きさを知っていますか～

ローマ9：15～23

あなたは失敗した人を見たときどんな気持ちになるでしょうか。多く人は人の失敗を見て自分の失敗を思い出すのではないのでしょうか。日本人は恥の文化でありヨーロッパは罪の文化と言われます。恥の文化が対人であるのに対し、罪の文化はいつも神様が見ているというものです。私たちが「恥」というものをどういう風にとらえていて、神様があなたをどう創ったのかということを考えるべきです。恥の文化にはいつも人がいるので、失敗をすることがとても怖いのです。「恥をかくこと」あなたは好きですか。人が見ている、人に迷挫をかけない、自分のことは放っておいて・・・これは恥の文化です。失敗をかくす、これが日本でも大きな問題を起こしています。恥の文化は人に迷惑をかけなければよいのです。だから「1人で赤信号を渡るのは迷惑、でもみんならよい」となるのです。自分の基準で迷惑が決まってしまう。しかし神が出している基準なら「いけないこと」は「いけないこと」なのです。恥の文化では「生」のための基準が「戒め」の基準になってしまったのです。あなたは「人から見られる基準」があまりにも大きなウェイトを占めていませんか。悪いことだとわかっている、みんながやっていることをやらなきゃ迷惑をかける、だからやってしまうということはありませんか。私たちは日本の文化で生きてきましたが間違っただ概念があるのなら直さなくてははいけません。「人から見られているからやる」という概念を捨て「神様が自分をどういう風に創ったのか」ということを知らなくてははいけません。そして「どう創ったか」という概念が壊れているのは、私たちは「器」だと言われているのに「中身」だと思っているからなのです。（ローマ9：15～）有名な北大路魯山人の言葉にこんなものがあります。「器は食べるものを着飾る着物である」「大衆がすばらしいというものは低級、高きものは大衆にはわからない」彼は日本人のもつ「恥の文化」の概念を真っ向から否定しています。彼には、自分の能力は授かったものだという概念がありました。器は器の使い方を選ばません。しかし私たちは「自分はこうあるべき」「これはしたいけどこれはしない」と決め付けていませんか。どうして人目を気にしてしまうのでしょうか。「私はこんなことにしか使えない」と自己卑下したり「こんなものを入れやがって」と高慢になったり・・・でも器はたまたま物を入れるためにあるだけで、器が肝心なわけではありません。器は神様が作りましたが、その器が頑なであれば悪いことにしか用いられません。しかし柔軟であればよいことに用いられます。その神様が私達を今のところに置かれているのです。でもその場所で「ここは違う」「そんなことしたくない」などと言っているも他の場所でうまくいきません。あなたの器を過小評価しないでください。あなたが作ったのではないのですから、あなたがあなたの使い方を勝手に決めてはいけません。「神がそうせよ」と言われたら柔軟に使われる場所で使われなくてははいけません。小さなことでよくよしてはいけません。あなたは物を入れるためにあるのであって中身ではありません。しかし自分が器であることを忘れると自分のやっていることがメインになってしまうのです。「忙しい」「自分はこんな大切なことをやっている。だからこれはできない」「この中身立派でしょ」あたかも自分が中身みたいなことを言うのです。あなたに権利がある人が着なさいといわれたら着なくてははいけません。（イザ64：8）（エレ18：1～4）神様はあなたをこの地上に粘土として送り、「こういう器になってほしい」と願ったのですが、色々な影響で願ったとおりの器になっていない可能性があるのです。だから陶器師の家に来て元のとおりに戻る・・・それが教会です。「陶器師は、粘土で制作中の器を自分の手でこわし、再びそれを陶器師自身の気に入ったほかの器に作り替えた。」気に入った形に戻すとは、自己中心のためではなくあなたが一番用いられやすい形に戻すということです。だから陶器師の語る言葉に柔軟にならなくてははいけません。神がせよと言われた形に戻らなくてははいけません。①恥を恐れるな。恥をかくことをこの上ない喜びだと思ってください。間違っただ道にいたあなたが恥をかくことで戻るのです。失敗を笑うような人はいません。失敗は誰にでもあります。あなたの失敗をかぶる人もいるかもしれませんが、それが助け合うということです。「同じ失敗を二度としない」それで成長できるのです。ダビデは国民の前で何度も恥をかきましたが、彼が愛されたのはその時、ただただ「ごめんなさい」と言ったからでした。直すことでなく、したことの後悔をしていても一生直りません。ペテロはみんなの前でイエス様に3度「私を愛するか」とたずねられました。そして二度と繰り返さないとなった後のペテロの人生は変わりました。「迷惑をかけない」という生き方から「（そのことに対して）迷惑は一度しかかけない」にしていきましょう。後悔するのではなく、二度とそうしない方法を考えてください。②器を聖く保つ。（Ⅱテモ2：20～21）罪から離れて生きてください。あなたはあなた自身のものではありません。あなたの主人があなたを使って何かするためにあなたを作ったのです。穴があいたのなら埋めてもらえばよいのです。あなたの過去を知っている人には今のあなたの生き方を見せればよいだけです。③器の中身を知る。（Ⅰコリ4：6～）私たちは土の器ですが中身は光り輝く金のようなものです。あなたの内側に輝かしいものを置いてください。自分が出てくるから失敗するのです。心の中心にイエス様がいれば恥だって恥ではないのです。ポロポロだったかもしれない器でもその中にすばらしいものが入ることで輝いているのです。中身があなたを選んだのです。人と比較する人生から神に選ばれたと思う人生にしてください。そうすればあなたはその場所で必ず成功します。あなたの中にある物のためにあなたはあるのであって、あなたのために中身があるのではないのです。器は飾るためでなく物を入れるためにあるのです。今日から、神が生きよといったとおりに生き、最後、天の美術観に飾られる器になっていきましょう。（要約者：岩崎祥誉）